



正一部金貳錢 一版五部十 一料字詰一行 日刊 日曜大停 祝日ノ翌 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

刊夕日三十月五

常盤毎日新聞
海産物の食糧品
福島縣水産試験場製造主任 松本清之丞 承前

本縣の水産製造業は大体に於て家庭工業の擴張せる鯉節魚肥鹽干魚の製造蒲鉾竹輪薩摩揚其他細工蒲鉾鯖北寄鯉等の罐詰等何れも大規模の製造工業ではない近く設立された磐城水産工業會社は魚類の冷凍保藏と連絡し鹽節其他各種の農水産物詰及鹽干調味加工品を製造する豫定で本縣の家庭工業的水産製造業に及ぼす影響は何れに於ても少なからぬ

ものがあふと思ふ水産製造業の發達は單に大規模の大量生産の製造工業を以て任ずるものでなく總ての製造が科學的に機械化されて大量生産となり原料全体の善用が完成されて行くのが技術的發達の歴史で漁業組合信用組合等の漁村唯一の改發機關が有機的に家庭工業の發達を助長督育して其存共榮の實を擧ぐるに勉めば健實なる發達は云はれぬ佛國は加工食料品製造に於ては最も優秀なる科學の眞美を現し獨乙は總て食用工業藥品等各部に分解善用の道を盡すに秀で米國は機械的大量生産の發達を爲し各

々特異の經緯を爲して居る之れ所謂天地人三徳の事業に及ぼす影響であつて本邦に於ても關西、關東、東北の各地が其發達を異にして居る、總てノ産業發達の体系として此の天地人三徳の合致する否とが動かすべからざる源質、官民一致の歩調は此の軌道に向つて進展して行くの現實的理想とも云ふべく共に奮勉せねばならぬところである (をばり)



ポスター類 展覽會 郡下各商店
期日六月一日二日頃 場所 公會堂 出品物 商品包紙、レツテルホスター、ペーパー、型録、商品切手、受取書等其他一切 申込方 平町田町 一〇商店 みどり會宛

京都産出瓦斯販賣 有聲階座 コレクター等 石城郡平窪村 松吉屋本店 電話二四一番

酒 清 余 釀 造 元 美 術 表 具 玉 成 堂 平町田町 關内藥局 電話四〇番

原齒科醫院
平町土橋通り電話三一一番

割烹 平町松家公園池の端 中野呉服店 電話三三六番

離れ座敷新築落成致しましたから 御利用下さい

晩春の親切第一!!
澤山新荷方揃ヒマシタ

羽二重片側帶地 本セール本ネル

季本セル 六圓五十錢
節全 八圓五十錢
特英ネル 一圓三十五錢
賣羽二重帶皮 三圓五十錢

中野呉服店 電話六十七番

益々大評判 世論の向ふ處 當然!!!

然り實質廉價の勝利
賣れ行きが最大の雄辯然り
御禮の爲め來る 十六日迄日延

◇鯉節半値段提供!!
小賣百多一圓二十錢の品
本店で夕夕ノ七十錢
小賣百多九十錢の品
本店で夕夕ノ五十錢

魚問屋 平町三丁目角
阿部源商店 電話五二七番

愈々天下に輝く舶來に勝る **和製のラヂオを以つて**

郷土の晩春を訪れて居ります

今や世界的マツタの最も新しい製品ニ球再震式無線電話受信機サイモホンC型メロデーが各部中は申迄もなく山間僻地からモレ來る様になりました、皆様に高價なものよりも安價によく聞ゆるマツタのラヂオを得愛用の上楽しい笑聲を和して下さい

代價壹台は僅に金貳百圓也 附屬アンテナ共一式附きます

常盤線平町四丁目五番地 機械 磐城工業商會 中村 佐治 助 電話二一八番(省略イコ)

りん病ニハ ツヨリン キキメ第ナリ

現代化學の驚異!
名藥ツヨリンを今すぐ病癒は遂に驅逐され 幸福は再びアナタを抱擁せん

平町四丁目 特約店 關内藥局 電話四十番

定價 圓壹金 分日八 圓壹金 分日十
圓貳金 分日六 圓壹金 分日十二

社會式株藥製正明 舖本 九二七九一京東醫振 橋本日京東 九〇七〇二阪大醫振 町修道阪大 R.3

集募生究研 理想的洋服教授!!!

斯界の最も好評を博し居る 理想的洋服教授!!!

和服一般教授
婦人子供其他洋服教授
生花茶ノ湯其他

叶田洋服研究所
教師 叶田千枝
平町南町(青木寫眞館前)

平町側の岩田博士 堂々と論陣を張る

昨日の行政訴訟

利権屋の一味チ、ミ上る
家佐藤勇造所有打瀬船猪狩
九十八噸は去る十一日午前
五時頃勇造外七名乗り込み
平町を悩ましつゝある大瀧
發電所の運命を決すべき行
政訴訟の第一回審問は昨日
午前十一時廿分より東京に
於ける行政裁判所に於て開
かれ

裁判長 以下評定官

五名列席、原告平町側の辯
護上岩田博士は事實の申立
及び理由に關し水量に脅威
を與へ水質を汚損すべき點
に就き縷々陳述し殊に平町
の同意を得ずして大瀧江筋
の水路に改築を加ふるが如
き設計を爲し縣の許可を受
けしは發造物侵害なりと
力説し 幾多の事實
に徴して不當許可を駁す所
あり被告律師側代理桃井
法學士、新井電氣技師及び
發電所計劃者側から自由參
加した辯護士猪俣博士等は
平町水道の必要水量は是れ
を分流する事になつて居る
のであるから水量や水質に
影響はない筈などと自前
勝手な 机上の空論
を並べ立てたが叫れり岩田
博士に小氣味よく反駁され
午後十二時廿分閉廷、次回
は七月七日と決定した

警城高女の

關西旅行團から

(第一信)時は五月、何ん
とばなしに心のそのの
廿六分にて小瀧を出發致
したる中は何んの變
りもなく色々の遊びにキ
ヤツ／＼と大騒ぎをした
り又一方には餘りにも美
しい自然の姿に接してそ
の美をたゞへると同時に
その自然のふところを育
つて居る私達人間の
醜くそして又弱いのをか
こゝたりして居りました
がとうとう野驛に着い
てしまひました。帝室博
物館を初め美術館をそれ
に二重橋日比谷公園に行つ
て最後は丸の内ビルデン
グに入つたのでした。壯
大なる建物美しいシャン
デリヤの下にあつたやかに
着かざつた女給たち地下
室の食堂などは美しき地
たこと道路には電車や自
動車が引切りなごに疾走
して居るのであります。それ
都會の人達は機敏にそれ
では平然として歩いて居
りました私達人間には
おかまいなしにどん／＼
さかしく發展して行かう
として居る様子を思はれて
なりませんでした

行政訴訟開廷前に

會社側から和解を

申込んで拒絶さる

別項大瀧發電所問題の行政
訴訟審問前に於て自由參加
せる小田炭礦代理猪俣辯護
士から平町側代理岩田辯護
士に對して水槽分水を條件
とし
妥協を 申込み來つ
た是れに對し岩田博士は營
利會社の盛衰興亡は是れを
豫期し能はざるものに拘ら
ず會社側の水槽より平水道
が分水を受けるが如き不安
な條件にては到底此際妥協
の途なしと手強く跳ね付け
た、これに依つて見ても會
社側は此訴訟の前途に悲觀
を抱き

白井判事が

死刑執行の

實見談を試む

平町十三日會は今晩午後七
時半より平銀行樓上に開か
れ殺人犯審理の經驗談及死
刑執行の實見談と題し平區
裁判所監督判事白井武松氏
の講演ある由

保護評議員

總會で改選

平町小學校兒童保護者會に
ては十日總會を開き左記の
如く評議員を改選した
(第一校)江口忠一、渡邊
政五郎、長谷川政、渡邊
善吉、永野柳造、佐藤芳
松、小野勇、吉田寅之輔
永山義太郎、堀江正茂、
阿部政左衛門、松村鉄郎
新田目善次郎、中野庄吉
清野才二、大越寅市、小
野村幸二、草野順平、西
牧盛雄、神谷辰五郎、植
頭鶴松、滑川一郎、門傳
清吾、宇留野義彦、山内
武夫
(第二校)武田元之助、根
本莊次郎、色川勝三郎、
吉田喜代治、酒井良吉、
金成正義、生田恭藏、吉
田五平、櫻井賢文、大森
勇、中野甲藏、有馬公一、
麻生川頭、實川彌太郎、
玉川兼次郎、中山止次、
渡邊富義、花澤鬼五、
宮内金吾、三森虎雄、猪
狩庄平、永山和平、小野
金太郎

漁船の火事

損害九千圓

相馬郡福浦村大字浦尻漁業
江名濱沖で

小名濱を出帆双葉郡清戸沖
にて打瀬漁を爲し十二日午
後四時頃小名濱へ歸港の途
中江名濱中の作沖合一連の
海上にて機關手浦島安吉



タヒトのうしほ 欄庭家

タヒトのうしほ
タヒを頭と骨を一寸角位の
大きさに切り、すり鉢の様
なものに入れて鹽をふりか
けて約四五十分も置いて鹽

がとけたならば熱湯をたつ
ぷりかけて、手早く二三回
位かきまぜ直ぐに湯をすて
冷水を入れかへ／＼して冷
み指先にて皮付きの處をす
りウロコの残つてゐるのを
落とすまじで敷ザルに並べ
ます、そして鍋に水(タヒ
身百々に對して水一升位
とタヒを入れ強火にかけて

浮き上るあわを丁寧によく
ひすて、ぶつ騰したら弱火
として、おぼしげらく煮て
タヒだけを引上げます、残
りの汁に醬油と食鹽とで味
をつけ味の素少量を入れタ
ヒと共に茶わんに盛り木の
芽をすい口として入れます
と大變味がよろしく御座い
ます

日光から東京へ(三)

平陽の修學旅行に参加して

九日七野一

川崎生

汽車は遠慮なく走つて日
暮里驛に着けば電光に照し
出された薔波は窓外 迫
り大東京は目睫の間に接近
した、「平町の方が東京な
んかよりヨッポトいいよ」
ナンテ負けず嫌へを云ふ女
生徒も ある、一行
は人の波にもまれて上野驛
に吐き出され出迎への宿舎
の提灯を先登り旅館群玉舎
に到着、時既に九時、近く
大急ぎで夕飯を詰り込み廣

宿舎の

蒲團に故郷

の夢を結ぶ、翌くれば九日
床の中から久し振りで聞く
電車の軋りもなつかしく一
行は直ちに旅装を整へ省線
電車で裏參道から明治神宮
に參拜三人の女生徒が手
つなぎ合せて漸く抱へる事
の出来る大鳥居をくぐつて

現代の

粹を蒐めて

神宮橋から青山の電車通り
に出で、込み合ふ
電車で 押し込めら
れて櫻田門前に下車宮城を
遙拜して日比谷公園に遊び
九ピルの雑踏に吸はれて丸
菱呉服店の「劇と創作に現
れた人物の展覧會」を見る
中央ステーションを左に見
て京橋迄重い足を引き、又
電車で今度は三越へ、流石
は日本一、眼に觸るゝもの
の總べてが

公園の

電光燦たる

仲店から觀音様を拜し活動
寫真を觀覽したが、で自
分は外館の悪いエピソード
を書かねばならぬ破目に陥
つた、この話は同行の酒
井先生にも女生徒達にもど
う／＼打ち明けて置いた
のであるが讀者諸君にだけ
は包まず白状する意味に於
て詳細は明日の紙上に……

餅を食べて

老爺が死亡

石城郡小名濱町神明町魚
行商馬土榮助(七)は十二日
午後二時頃隣家から搦きた
ての餅を貰つて食べたが喉
に引ツ掛けて轉々苦悶し鈴
木醫師の應急手當を受けた
が夕刻遂に死亡したと